

地域資源を活かす！

国内初！照明器具を組み込んだ木製家具を製造し、癒しの空間を提供

東木工株式会社

東木工株式会社は、国内産家具の売上減少が続く中、付加価値の高い照明器具を組み込んだ家具を開発し、更なる販路拡大のため、積極的な事業展開を行っています。今回は、同社常務取締役の東稔雄氏に話を伺いました。

船大工から木製家具製造へ

1820年代に初代東次平が大川市にて船大工業にて創業。その後、1915年に4代目東三郎が家具製造業に転業し、主にサイドボード、隅棚を製造していました。さらに、1966年には5代目東宏吉が東木工株式会社として法人化し、リビングボードに新しい加工技術をいち早く取り入れ、曲面ボードの開発等を行っていました。

しかし、近年では婚礼に伴う家具購入の減少やウォークインクローゼット等の普及による家具購入の減少、輸入品の増加等により平成2年をピークに、平成16年ではピーク時の売上の約3割にまで減少していました。

照明器具を組み込んだ木製家具の開発

近年、リビングルームや寝室を癒しの空間として捉え、間接照明を設置する消費者が増えてきています。そこで、付加価値の高い商品を消費者に提供することにより、他社との差別化を図るため、平成12年から木製家具に照明器具を組み込んだ手法を取り入れた商品展開を行っています。

既存の照明を組み込んだ造作家具は、ほとんどが別注オーダーで製作されているため、時間・

労力・コストがかかっていました。しかし当社では、イージーオーダーにより、設計・施工期間の短縮とコストの削減を実現しています。また照明器具には、LEDライトを使用することにより、発熱がなく、蛍光灯と比べて消費電力が約6分の1と省エネ設計となっています。

現在は一般消費者の中でも、主に30～40歳代の生活にゆとりのある層をターゲットとし、家具店やインターネットによる販売を行っていますが、従来の家具の目的である「収納すること」に照明器具を組み込むことで空間の演出効果を生み出すと好評で、売上は順調に伸びています。

デザイナー等との連携により商品ラインの充実を図る

一般消費者だけでなく、商業施設向けに更なる販路拡大を目指したいと考えていた時、取引先からの紹介により、「地域資源活用事業」を知りました。事業計画については中小基盤整備機構や中央会、専門家の支援・アドバイスを受け、平成20年7月31日付で「地域資源活用事業計画」の認定を受けました。

現在は、飾り棚の背板を均等に光らせる商品などの開発を行っていますが、従来からの自社によるデザイン開発だけでなく、デザイナー等と連携して新たな商品展開を行い、照明器具付家具の更なる認知度向上に努めていきたいと思っています。



照明器具を組み込んだ棚

企業情報

企業名	東木工株式会社
代表者	東 三起雄
住所	大川市大字津605-1
TEL	0944-88-1238
URL	http://www.higashi-inc.com/
資本金	2,400万円
従業員数	16名